

コスモス 1月号

第72巻 第1号

◆宮柊二カレンダー(58) 一月の歌

おどろきて目を睜^{みは}りたり元日の装ひをして娘^こ
の近づけば
歌集『獨石馬』

昭和46年1月1日「築地通信」に掲載された「歳首」5首の冒頭の1首。詞書に「終戦のかの日は昨年のごとくに思はるれど、その年の生れの子は嫁ぎゆかんとするなり」とある。長女がわが娘として過ぎす最後の正月。特別な思いだったに違いない。二句切れで成長した娘への驚きを率直に表現し、三句から娘の描写に自らの感慨を滲ませている。『獨石馬』には5首のうちもう1首「感傷し彼の^か日を憶ふこの年に嫁ぎゆくべき娘と仰ぎつつ」も収められている。
(真島陽子)